

主な出来事

【内政】

●12月16-17日、第8回 MPLA 臨時党大会が開催され、ロウレンソ大統領は、アフリカ連合(AU)議長国就任後に優先して取り組む課題として、スーダン危機の解決を挙げた。

【外交】

●12月2-4日、バイデン米大統領は、アンゴラを訪問。首脳会談前の冒頭演説にて同大統領は、現役米大統領初訪問となった今次訪問を「歴史的瞬間」と表現。また、農業分野でのアンゴラの潜在力を協調し、生産量向上の重要性を指摘した。

●12月15日に開催予定であったアンゴラ、コンゴ(民)及びルワンダ間の首脳会合は、カガメルワンダ大統領の欠席により実現しなかった。

●12月15日、ジョゼ・バキモナ・ザウ西アフリカ諸国共同体(ECOWAS)アンゴラ政府代表部大使は、第66回 ECOWAS 通常首脳会合に出席。アンゴラ初の同首脳会合への参加となった。

【経済】

●12月4日、アンゴラ訪問中に「ロビト回廊トランス・アフリカ・サミット」に参加したバイデン米大統領は、ロビト回廊に対して約6億米ドルを追加で融資する旨発表。

●国家統計局(INE)によると、11月のインフレ率は前月比1.61%、前年同月比28.41%の上昇を記録。

●12月19日、ロウレンソ大統領は、ハイサム／オマーン国王とカトカ及びルエレ鉱山のダイヤモンド採掘事業の株式取得について合意。

* 本月報は当地主要紙 Jornal de Angola 紙を中心に、月末現在の報道などの公開情報を大使館で取りまとめたものです。

内政

1. 料金所の建設の決定

12月4日、閣僚委員会は国境及び国道の重要地点計14箇所に料金所を建設することを決定。同措置は税制の改正により、これまで道路のメンテナンス費用に充てられていたガソリン税の直接使用が不可能となったため、その不足分を補うことを目的としている。

2. 第8回 MPLA 臨時党大会の開催

12月16-17日、第8回 MPLA 臨時党大会が開催された。ロウレンソ大統領は、同大会にて、米国によるロビト回廊への投資、人口増加への対応としてのインフラ整備のほか、アフリカ連合(AU)議長国就任後に優先して取り組む課題として、スーダン危機の解決を挙げた。

3. 新設州における州知事の発表

12月17日、ロウレンソ大統領は新設されるクバンゴ州、イコロ・イ・ベンゴ州及び東モシコ州の州知事として、アマラル・ルシオ氏、アウジリオ・ジェ

イコブ氏、クリスピニアーノ・ドス・サントス氏を任命した。

4. 最高裁判所による 2024 年の判決数

12 月 20 日、最高裁判所は 2024 年に裁判所へ提訴された 2,384 件中 1,263 件について判決を下したと発表した。

5. アンゴラ独立 50 周年を記念した恩赦の発表

12 月 25 日、ロウレンソ大統領はアンゴラ独立 50 周年となる 2025 年 11 月 11 日、ドス・サントス元大統領の息子であるジョゼ・フィロメノ・ドス・サントス氏を含む模範囚 51 名に恩赦を与える旨を発表した。

6. 2025 年からのバーコードの導入

12 月 28 日、2025 年第 1 四半期から政府公認のバーコードが導入される旨発表された。アンゴラは、2024 年 5 月に国際的な流通標準化を推進する GS1 に加盟し承認されている。

外交

1. バイデン大統領のアンゴラ訪問

12 月 2-4 日、バイデン米大統領は、アンゴラを訪問。12 月 3 日に実施された首脳会談前の冒頭演説にて同大統領は、現役米大統領初訪問となった今次訪問を「歴史的瞬間」と表現。また、農業分野でのアンゴラの潜在力を協調し、生産量向上の重要性を指摘するとともに、これまで 30 億米ドル以上を投資してきた点強調した。

2. バイデン大統領のトランス・アフリカ・サミットへの参加

12 月 4 日、アンゴラ訪問中のバイデン米大統領は、ベンゲラ州で開催された「ロビト回廊トランス・アフリカ・サミット」に参加。同サミットには、同米大統領、ロウレンソ／アンゴラ大統領の他、フェリクス・チセケディ／コンゴ(民)大統領、ハカインデ・ヒチレマ／ザンビア大統領、フィリップ・ムパンゴ／タンザニア副大統領、米国国際金融開発公社(DFC)

CEO及びアフリカ開発金融公社(AFC)CEO等が参加した。

3. 米国政府との覚書の締結

12 月 6 日、米国政府及びアンゴラ水産・海洋資源省は、「大西洋における海洋資源の持続可能な管理に向けた科学・技術協力」にかかる覚書を締結。また、USAID 及びアンゴラ運輸省はロビト回廊における成功を今後の新規事業に生かすことを目的とした、運輸・インフラ分野におけるキャパシティ強化にかかる覚書を締結した。

4. ロウレンソ大統領の南アフリカ共和国訪問

12 月 12 日、ロウレンソ大統領は、南アを訪問。これまで実現しなかった二国間委員会(Binational Commission)を 2025 年上半期にルアンダにて開催する旨約束。併せて、コンゴ(民)東部情勢につき、アンゴラ、コンゴ(民)及び南アによる三カ国間メカニズムの必要性を強調した。

5. ルアンダ・プロセスにおけるカガメ／ルワンダ大統領の欠席

12 月 15 日に開催予定であったアンゴラ、コンゴ(民)及びルワンダ間の首脳会合は、カガメ／ルワンダ大統領の欠席により実現しなかった。フェリクス・チセケディ／コンゴ(民)大統領は、カガメ大統領の欠席事由につき、ルワンダ軍撤退をもって戦闘の終結とする同会合の目的に合意できなかったためと説明した。

6. 西アフリカ諸国共同体(ECOWAS)へのオブザーバー参加の決定

12 月 15 日、ジョゼ・バキモナ・ザウ ECOWAS アンゴラ政府代表部大使は、ナイジェリアのアブジャで開催された第 66 回 ECOWAS 通常首脳会合に出席。アンゴラとして初の同首脳会合への参加となった。また、アンゴラは 2025 年に開催される臨時首脳会合にて、オブザーバー国として承認される予定。ECOWAS への参加は、安全保障及び地

域統合における問題解決に向けた、アンゴラ、南部開発共同体(SADC)及び ECOWAS 間の政治・外交的協力関係の確保を目的としている。

経済

1. 米国によるロビト回廊事業に対する追加融資の発表

12月4日、アンゴラ訪問中に「ロビト回廊トランス・アフリカ・サミット」に参加したバイデン米大統領は、ロビト回廊に対して約6億米ドルを追加で融資する旨を発表。右は、農業インフラ、インターネット回線の高速化及びロビト・アトランティック鉄道(LAR)の継続的アップグレードを目的としている。

2. 今後の原油生産量の見込み

国家石油・ガス・バイオ燃料庁(ANPG)は、2025年から開始される6つのプロジェクトによって、2027年までアンゴラの原油生産量は1日あたり100万バレル以上を維持できると発表した。

3. ロウレンソ大統領による15億米ドル分の融資への署名

12月9日、ロウレンソ大統領は、米投資会社J.P.Morgan Securities plcと6億米ドル分の融資契約に署名。また、現金貯蓄の増強を目的として英Standard Chartered Bankと5億米ドルの融資

契約を、国道EN120の建設を目的として、Banco BIC Portuguese, S.A.と6,000万ユーロの融資契約を結んだ。併せて同日、ロウレンソ大統領は、アンゴラ政府による人的資本と強靱性のための社会保護システム強化プロジェクトに対する世界銀行からの4億米ドルの融資を承認した。

4. 11月のインフレ率

国家統計局(INE)によると、11月のインフレ率は前月比1.61%、前年同月比28.41%の上昇を記録。

5. オマーンとの鉱山資源にかかる覚書

12月19日、ロウレンソ大統領は、ハイサム／オマーン国王とカトカ及びルエレ鉱山のダイヤモンド採掘事業の株式取得について合意。同覚書は、両国間のエネルギー分野での協力及び戦略的金融イニシアティブにおける協力の機会を探るもの。

6. 2024年第3四半期におけるアンゴラのGDP成長率

12月23日、ルイス・エパランガ経済企画大臣(企画担当)は、アンゴラの2024年第3四半期のGDP成長率が5.5%を記録し、2015年第1四半期以来の最も大きな上昇となった旨を発表した。

(了)